

平成29年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)
(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	① 児童生徒の主体性を引き出すための、授業改善や学習環境の整備、ICTを含む教材教具の効果的な工夫を行う。	児童生徒の主体性を引き出すため効果的な学習環境の整備や教材教具を何点準備できたか A：5点以上 B：3点以上 C：1～2点 D：0点 【達成基準】A+Bの割合が80%以上かつAが50%以上	各教員の達成度の割合(単位%) A B C D 小 66.7 33.3 0 0 中 33.3 66.7 0 0 高 50.0 50.0 0 0 分 100.0 0 0 0 全体 53.8 46.2 0 0	すべての職員がB評価以上に該当したが、中学部だけA評価が基準に達していない。何点準備したかについて、数えにくいとの意見がだされていた。今後評価の仕方について見直す必要があると思われるが、児童生徒の主体的な姿を引き出すための、教室環境の整備や教材の工夫をすることは大切なことであり、A評価になるよう今後とも継続して取り組んでいく。
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 【達成基準】A以上	回答数 ・授業参観 18 授業への満足度(4項目) 100%	授業内容のわかりやすさ、教員の児童生徒とのかかわり方、教材などの工夫、学習環境の4点についてアンケートで質問している。いずれの項目もマイナス評価がなかった。アンケートで問うた項目はいずれも授業改善に関係するものである。今後とも継続して取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価	・授業の一番大切なことである。職員が自信をもってA評価を着けられるようになるとよい。今後とも継続して取り組んでほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・学校研究をととして授業実践に取り組み、チームティーチングの有効なあり方をふくめ授業改善をはかり、児童生徒の主体性を引き出す取り組みを継続していく。 ・教材教具の効果的な工夫については、日々の実践で意識した取り組みを継続していく。			

平成29年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)
(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、児童生徒一人一人に1つ以上具体的な実践する。	キャリア発達面の個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 【達成基準】B以上	≪教員：単位％≫ 小 100.0 中 100.0 高 93.8 全体 96.9	教員が児童生徒一人一人のキャリア発達を育成する取組を行い、個別のねらいに対して向上が見られたかどうかで達成度を判断した。小中学部については、100%であった。高等部についても中間評価よりも高い値であった。今後も児童生徒一人一人に応じた具体的な実践をより一層今後も続けていく。
	② 毎月のあいさつ運動等を通し、教員自らが見本を示すことで、様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	あいさつの仕方に見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 【達成基準】B以上	チェックシートによる向上が見られた児童生徒の割合(単位%) 小 100.0 中 63.2 高 96.8 全体 86.6	中間評価での反省を受けチェック方法を見直し日々のあいさつの様子もチェックし指導に活かした。その結果全体としてD評価からB評価に向上した。特に小学部と高等部についてはA評価で目標が十分達成できた。一方で中学部がD評価であり、今後もあいさつ向上の取り組みを続けていく必要がある。
	③ 公共施設の清掃や作業製品の販売等を通して、生徒の就労面での実践的な能力や態度の育成を図る。	就労面での能力や態度が向上したとする生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 【達成基準】B以上	高等部生徒6名中6名に向上が見られた。 100%	目標は達成することができた。中間評価で課題になっていた「てきぱき動く」「休憩時間の態度」「言葉遣い」の項目で就労サポーターとともに取り組んだ結果、どの項目も向上が見られた。後期については就業体験実習と重なりすべての生徒について評価できなかった。今後も就労を目指す生徒について取り組みを続けていく。
	④ 進路だよりや進路掲示板の活性化を図りつつ、保護者が希望する進路情報を提供する。	学校からの進路情報はわかりやすく参考になったかどうか A：十分参考になった B：やや参考になった C：あまり参考にならなかった D：参考にならなかった 【達成基準】A+Bが70%以上	≪保護者：単位％≫ A B C D 小 28.6 64.2 0 7.2 中 42.9 57.1 0 0 高 38.0 48.3 13.7 0 全体36.8 54.4 7.0 1.8	保護者評価は達成基準に達しており、良好といえる。また、CD評価も減っている。しかし、高等部においてA評価が減っていることについては今後の検討課題である。学校からの進路情報は、個別の懇談等による情報、掲示物や進路便り等によるお知らせの内容、発信方法についてもこれまで以上に見直していく必要がある。さらに進路情報ニーズを把握し、担任や保護者への情報の提供などこれからも続けていく。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの進路情報について、小学部でD評価を付けた保護者がいることは重要視した方がよい。何らかの改善が必要である。保護者の中には、進路に関して知識のない方も多い。進路に対する認識には温度差がある。学校に相談するにしても何を聞いていいかわからず不安に思っている保護者もいる。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 進路支援の手引きを作成し基礎的な知識と話題提供をしていく。小学部の段階から進路を考えていけるような取り組みをしていく。 			

平成29年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.3)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)
<p>(3) 児童生徒の健康の維持、体力の増進に努める。</p>	<p>① 体づくりや体育の授業を通して、児童生徒の体力向上に努める。 また、重度重複児童生徒の健康維持増進、身体機能の維持に努める。</p>	<p>《小》体力の向上が見られたとする児童の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成基準】B以上</p>	<p>目標に応じて伸びが見られた児童の割合 ・体力の向上 77%</p>	<p>伸びが見られた生徒の割合が77%でありB評価となり目標は達成された。またその他の児童については健康の維持増進が見られた。体力向上、健康の維持増進の結果としては100%となり、継続して取り組んだことで一定の成果が見られた。</p>
		<p>《中》体力の向上が見られたとする生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成基準】B以上</p>	<p>伸びが見られた生徒の割合 ・立ち幅跳びで 71.4%</p>	<p>瞬発力について立ち幅跳びの測定を行い4月より71.4%（14名中10名）の生徒に記録の向上が見られた。体育の時間においてトレーニングの時間をこまめにとったためとみられる。目標としていた8割には到達しなかったが、多くの生徒に向上が見られたことはよかった。達成基準はB評価となり目標は達成した。50m走は天候不順で実施できなかった。</p>
		<p>《高》体力の向上が見られたとする生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成基準】B以上</p>	<p>持久力テストで記録が伸びた生徒の割合 《Aグループ》 75 % 《Bグループ》 78.6%</p>	<p>体育で持久力の向上に取り組んだ。Aグループでは男子1500m走、女子1000m走のタイムを5月と10月に測定し、14名中9名の生徒の記録が向上した。年度末に再度測定を実施する。Aグループ、BグループともにB評価となり、目標を達成することができた。</p>
		<p>《肢》個々に応じた評価基準で健康の維持増進が見られた児童生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%以上 【達成基準】B以上</p>	<p>健康の維持増進が見られた児童生徒の割合 100%</p>	<p>小中高それぞれの部で個々に応じた目標を設定し取り組んだ。9名中9名で目標を達成しており、健康の維持増進を確認することができた。今後も、医療など外部専門家の助言を仰ぎながら今後も継続して取り組んでいく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・健康の維持、体力向上の取り組みはよい。継続して取り組んでほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・健康の維持、体力向上については、今後も体育や体力づくり等の通常の授業の中で継続して取り組みを進めていく。</p>			

平成29年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.4)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)
(4) 地域との交流を促進し、情報を発信することにより、社会への理解啓発を図る。	① 公共施設の清掃や作業製品の販売を通して本校の取組みを地域に発信する。	地域活動及び地域の方と接する活動の年間回数 A：20回以上 B：18回以上 C：15回以上 D：15回未満 【達成基準】B以上	3月末までの回数 ・清掃活動：9回 ・販売活動：7回 ・接客・案内：4回 計20回	年間回数は20回でA評価となり、目標は達成した。清掃活動は加賀商工会議所、大聖寺駅、加賀市役所、橋立地区会館の4か所、販売活動は本校文化祭を含め7回行った。また、来客への接客・案内の機会を設け、本校生徒が頑張っている姿を見てもらった。年間回数をこれ以上増やすことは現状では難しい。今後も今年度並みに継続して取り組んでいく。
	② 錦城RUN舞のよさこい披露を通して地域との交流や理解啓発を図る。	地域行事でよさこい披露に参加した児童生徒と教員数の合計平均 A：35人以上 B：30人以上 C：25人以上 D：25人未満 【達成基準】B以上	児童生徒 教員 ・アグリ加賀 12 14 ・南陽園 14 21 ・十万石祭り 16 22 ・幸徳園 11 18 ・錦城たかお祭 12 14 平均31人	参加者の平均は31人で、B評価となり目標は達成することができた。よさこいソーランの活動は、本校を地域の方に発信する大変良い機会である。土日開催のため保護者の協力が大変重要となっている。参加者が減少しつつあり、今後も全校集会での紹介や保護者への呼びかけの工夫をしていく必要がある。
	③ ホームページで児童生徒の活動の様子を発信することにより特別支援教育の理解啓発を図る。	各学部が一年間に行ったホームページの更新回数 A：40回以上 B：30回以上 C：20回以上 D：20回未満 【達成基準】B以上	2月9日段階の各部の更新回数 ・小 44 ・中 19 ・高 23	小学部は、A評価で目標を達成したが中学部、高等部はC評価で目標達成できなかった。行事等ばかりではなく通常の授業の様子をアップロードすることや、小グループに分け、各グループで更新に心がけることが更新回数の増加につながると考えられる。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・よさこい参加者が少なくなってきたことが心配である。新たな参加者が増えるように保護者の意識を変えるよう育友会と学校が一緒になって盛り上げていく必要がある。 ・ホームページの更新回数も大事だが、何を見たいか探り、日常的なホットな発信が広がると学校のイメージアップにつながる。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・よさこいの参加には、保護者の協力が必要である。児童生徒に向けてだけでなく保護者に向けても呼びかけの工夫をしていく。 ・ホームページの更新については行事だけでなく通常の授業の様子についてもアップしていくことを心がけていく。 		

平成29年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.5)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)
(5) いじめを見逃さない学校づくりをする。	① 児童生徒の様子等を職員間で共通理解を図り、小さなトラブルを見逃さずに対応していじめの未然防止に努める。	小さなトラブルを見逃すことなく対応していた。 A：とてもあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない 【達成基準】 A+Bの割合100%	教員の達成度の割合(単位%) A B 小 41.7 58.3 中 8.3 91.7 高 33.3 67.0 分 100.0 0 全体 34.6 65.4	全教員がB評価以上に該当している。今年度より年3回、職員に児童生徒の気になる行動に対して「いじめ兆候チェックシート」でアンケートを行っている。小さなことでも気になるところをチェックすることでいじめにつながらないよう取り組んでいることが、この評価となったと思われる。ただ中間評価時より小学部でA評価が増えているのに対し中学部では減っている。今後もA評価が増えるよう取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価		・教員対象の評価ではあるが、今後は高等部生徒からすいあげも今後あるとよい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・今後も「いじめ兆候チェックシート」を活用し小さなトラブルなども見逃さない学校づくりに取り組んでいく。 ・いじめだけでなく学校全体の安心安全に配慮した学校づくりを目指していく。		